ESIが開発した「クリアランス クリーンジェルα」

吐しゃ物を瞬間凝固・除菌

ノロウイルスなど感染症対策や災害備蓄に！

環境衛生や省エネのコンサルティングを主力に事業展開し、コロナ禍では「クリアランス」のブランド名で次亜塩素酸水溶液を用いた空間噴霧器を次々と開発したESI（本社・札幌市南区）は、この5月、吐しゃ物の処理に対応した新商品を開発・発売した。特に保育所や高齢者施設など集団生活を行う施設でニーズが高く、常備品としてまとめて購入するケースもみられる。

▲「1本70㌘。とても軽くスピーディーに使えます」と菊地匡彦社長

「クリアランス クリーンジェルα」を商品名とし、嘔吐物や排泄物にふりかけるだけで瞬時に固まり、除菌処理をできるのが最大の特徴。凝固後は粉状ではなくゲル状になるため飛散しづらく安全性が高い。ビニール袋等に入れてそのまま廃棄できるのもメリットだ。

開発のきっかけは能登半島への支援

この商品開発を進めたのは、同社の菊地匡彦社長が昨年1月、能登半島地震で甚大な被害を受けた石川県七尾市と穴水町を訪れたのがきっかけ。

次亜塩素酸水溶液の普及と正しい使い方の啓発を行う一般社団法人次亜塩素酸水溶液普及促進会議（代表理事・越智文雄あかりみらい社長）の理事を務める菊地氏は、同

▶保育施設や高齢者施設、自治体にとっては“備え”が大切

※商品の問い合わせは
TEL（011）211-5525
（ESI株式会社まで）

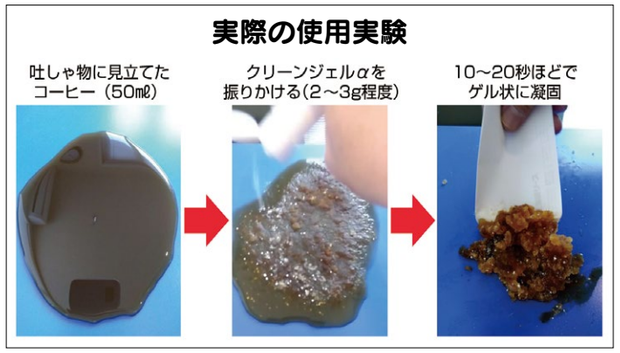
▲この商品は、吐しゃ物の処理を行う施設の職員に喜ばれている

会議が3度行った現地支援の第1陣としていち早く支援物資を届けた。その際に避難所で生活する人たちが臭気とノロウイルスの二次感染に困っていた様子を目の当たりにしたのだ。

こう話す。

「ノロウイルスが含まれた嘔吐物をどう処理するか、という問題がとても深刻でした。我々はすぐに使える次亜塩素酸水溶液や生成パウダー、超音波霧化器を支援物資として届け、それらの避難所ではその後、一人も感染者は出なかったのですが、次亜塩素酸水溶液は袋に入れた嘔吐物に噴霧して処理することはできても、嘔吐物そのものをその場で処理することはできない。なんとかしたい、という思いを強くしました」

今年に入って、ノロウイルスの施設内集団感染が全国で何度か発生した。ある事例は、子どもの吐しゃ物をアルコールで処理し、これで消毒が済んだという現場の誤った判断が一因になっている、と菊地氏は指摘する。



保育所や高齢者施設 現場の職員の安心に

そうした経緯から今回の商品化に至った。

「次亜塩素酸水溶液の成分であるジクロロイソシアヌル酸ナトリウムと高分子ポリマーを用いています。水全体をゲル状にする成分を持つこの合成高分子はおそらく世界最高レベルの性質を持っています。だから一般的な凝固時間よりも早く固まる。スピーディーに処理することで臭気を一気に軽減し、感染確率を大きく下げることができるのです」（菊地氏）

同社社員がサンプルを持参し、事業所で商品の特徴を説明すると、大半が「これだと安心」と興味を示すという。「全施設に常備しておきたい」と30～50本程度をまとめて購入するケースも見られる。定価は1本2200円（税込）で、6年間の品質保証付き。

▲能登半島地震の避難所でも活用された除菌水も好評

「それだけ現場では嘔吐物の処理に困っているということです。特に保育園や高齢者施設、管理する自治体ですね。嘔吐物の中に菌やウイルスが含まれている可能性があるとマスクと手袋だけでは不安を払拭できない。現場の職員はものすごく神経を使っているのです」

企業が商品を製造・販売するのはどこにでもあるビジネス行為だ。しかし、この商品の開発理由や手頃な価格を考えると、「一種の社会貢献」とも評価できる。

「23年前に、北海道で初めて次亜塩素酸水溶液の販売を始めたのが私。次亜塩素酸水は日常生活の中で普通に使われています。皆さんが安心して快適に暮らせる社会をつくるお手伝いを続けていきたい」と菊地氏は話す。